

# 事後評価書

要 因	(1) 事業概要	(2) 事業による環境の変化	(3) 事業を巡る社会経済情勢の変化	(4) 事業により整備された施設の管理状況	(5) 県民の意見	(8) 今後の課題等																																																				
県営中山間地域総合整備事業	<p>地区名：西有田西部地区（有田町）                      工期：平成8年度～平成13年度                      総事業費：1,960,000千円                      受益面積：162ha                      受益者数：724名                      事業内容：                      【農業生産基盤整備】                      ・ほ場整備18.7ha                      ・農業用排水路13,773m                      ・農道6,841m                      ・農地防災施設（ため池）3箇所                      【農村生活環境基盤整備】                      ・集落防災安全施設（防火水槽）2箇所                      ・農業集落道路401m                      ・体験農園1箇所                      ・農業準備休憩施設1棟                      ・有機肥料供給センター1箇所                      ・農村公園1箇所</p> <p>背景：                      本地区は、旧西有田町の西部に位置する中山間地域であり、傾斜地特有の棚田の水田や樹園地が多く、区画は不整形で狭く、排水状態も悪い。また、ため池や排水路の老朽化による漏水や農道の幅員が狭く、未整備なため効率的な営農が出来ない状況にある。</p> <p>農村生活環境は、集落内の道路が狭く、通行に支障を来していることや地域住民と都市住民との交流の場がないなど農業・農村の活力が低下している。</p> <p>目的：このような背景から、ほ場整備や農業用排水路などの農業生産基盤や農業集落道路や体験農園などの農村生活環境基盤の整備を行い、中山間地域の特性を活かした農業の展開と豊かで活力ある農村づくりを図る。</p> <p>キャッチフレーズ：                      『ため池と棚田』先人の心を受け継ぐ農の里づくり</p> <p>【土地改良施設の現状】</p> 	<p>社会文化環境                      ・集落内道路の整備により、通行時の利便性や安全性が向上した。                      ・防火水槽の整備により、火災時における早期対応が可能となり、生活の安全性が向上した。</p> <p>自然環境                      ・地区内の「棚田」の整備により、農作業の省力化等による農業生産の維持が図られることで、棚田の持つ多面的機能が発揮された。</p> <p>【多面的機能】                      ・美しい農村景観の保全                      ・洪水の防止                      ・水資源の涵養                      ・生態系の保全 など</p>  <p>【岳の棚田（日本棚田百選）】</p>	<p>農業情勢の変化                      ・旧西有田町では、機械利用組合13組織、集落営農組合6組織が設立され、新たな営農体制が構築された。</p> <p>地域活性化組織の設立                      ・当事業地区内にある日本棚田百選の「岳の棚田」を有する岳地区の住民によって、『岳信太郎棚田会』が設立され、都市住民との交流や子ども達の営農体験等による地域の活性化を図っている。</p> <p>【主な活動(H18)】                      ・棚田オーナー制度（12名）                      ・そば大豆のオーナー制度（21名）                      ・子ども達の農業体験                      ・留学生との交流など</p>  <p>【体験農園での農業体験】</p>	<p>施設の管理状況                      ・農村公園、農作業準備休憩施設（通称：棚田館）は、有田町が管理しており、約30万円/年の維持管理費(光熱費・委託料など)を要しているが、町財政が厳しい中、負担軽減を図る必要がある。                      ・有機肥料供給センター（堆肥施設）は、JA伊万里が管理運営を行っているが、計画していた量が製造されていないなどの課題がある。                      ・農道、用排水路などの土地改良施設は、農家を中心となって補修や浚渫などの維持管理を行っているが、将来、農家の高齢化や農家戸数の減少などにより支障をきたす恐れがある。                      ・ため池の日常管理（法面の草刈りなど）は、水利組合などが定期的に行っているが、ため池内に堆積した泥土の処理は、多くの労力や多額の経費を要するため、あまり行われていない。</p> <p>[収入(堆肥販売など)] 3,965千円                      [支出(機械維持費など)] 4,310千円                      [収支] 345千円</p> <p>[有田町のため池数] 206箇所                      [整備済のため池数] 54箇所</p>	<p>ため池は、受益農家や地域住民の協力のもと、法面の草刈、除草作業などを年2回程度実施している。しかし、漏水対策や土砂の浚渫などは地域住民では困難であるため、今後も行政の支援をお願いしたい。</p> <p>農道やほ場の整備により、高性能機械の導入が可能となり、農業経費の削減及び担い手への農地集積に大きく貢献した。</p> <p>ため池は米作りの源であるが、決壊した時は下流住民には大きな脅威にもなる。この施設が当事業によりその安全性が確保されたことは、住民の生命と財産を守るための大きな効果である。</p> <p>棚田オーナー制度などを実施しており、都市と農村の交流による地域の活性化が図られたが、活動組織のメンバーは50代、60代が中心となって行っているため、今後、後継者を育成する必要がある。</p>  <p>【農道の維持管理状況】</p>	<p>近年の米価の低迷や農産物の輸入拡大など農業情勢が厳しい中、アスパラや麦などの作付面積をさらに拡大し、農業所得の向上を図ることが必要である。</p> <p>農村公園や有機肥料供給センターは、町やJAにより管理されているが、維持管理費や運営費の軽減が必要である。また、農業用水路やため池などの土地改良施設は、農家の高齢化などにより、今後、農家だけの維持管理が難しいことから、非農家や行政と連携した維持管理体制を再構築する必要がある。</p> <p>棚田には、洪水の防止や水資源の涵養などの多面的機能があるが、農家戸数の減少や農家の高齢化などにより、今後、農家だけの維持が困難であるため、非農家の協力を得て棚田を保全する新たな体制づくりを行う必要がある。</p> <p>【参考】 2000年 2005年                      【総農家数】 916戸 871戸                      【高齢化率】 48.4% 54.8%                      【耕作放棄地】 53ha 39ha                      高齢化率は県全体、その他は有田町</p>																																																				
	<p style="text-align: center;">(6) 事業の効果</p> <p><b>農業生産状況等の変化</b>                      ほ場整備などによる大区画化や排水条件の改善により、タマネギや大麦等の作付面積が拡大した。                      (単位：ha、t)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作物</th> <th colspan="3">平成12年</th> <th colspan="3">平成18年</th> </tr> <tr> <th>作付面積</th> <th>単収</th> <th>生産量</th> <th>作付面積</th> <th>単収</th> <th>生産量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水 稻</td> <td>92.1</td> <td>453</td> <td>417</td> <td>105.3</td> <td>450</td> <td>474</td> </tr> <tr> <td>アスパラガス</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1.5</td> <td>2,533</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>タマネギ</td> <td>12.0</td> <td>5,870</td> <td>704</td> <td>21.0</td> <td>5,240</td> <td>1,100</td> </tr> <tr> <td>大 麦</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5.0</td> <td>311</td> <td>15.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>単収(kg/10a) (H12のタマネギは町全体、その他は受益地内)</p> <p><b>ほ場整備による大区画化により、大型機械の導入が可能となり、営農経費の節減が図られた。</b></p> <table border="1" style="width: 50%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成12年</th> <th>平成18年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[ 水 稻 ]</td> <td>平成12年</td> <td>平成18年</td> </tr> <tr> <td>労働時間</td> <td>825(時/ha)</td> <td>342(時/ha)</td> </tr> <tr> <td>労働賃金</td> <td>1,015(千円/ha)</td> <td>407(千円/ha)</td> </tr> <tr> <td>機械経費</td> <td>377(千円/ha)</td> <td>187(千円/ha)</td> </tr> </tbody> </table>  <p>【ほ場整備後】</p> <p>「体験農園」・「農作業準備休憩施設（棚田館）」の整備による都市と農村の交流による地域活性化が図られた。</p>  <p>【棚田館】</p> <p><b>農道整備による農産物輸送の省力化が図られた。</b></p>  <p>【整備前】</p>  <p>【整備後】</p> <p>・舗装                      ・拡幅</p>  <p>【体験農園での田植え体験】</p>  <p>【棚田館でのそば打ち体験】</p>  <p>【棚田ウォーキング】</p>	作物	平成12年			平成18年			作付面積	単収	生産量	作付面積	単収	生産量	水 稻	92.1	453	417	105.3	450	474	アスパラガス	-	-	-	1.5	2,533	38	タマネギ	12.0	5,870	704	21.0	5,240	1,100	大 麦	-	-	-	5.0	311	15.6		平成12年	平成18年	[ 水 稻 ]	平成12年	平成18年	労働時間	825(時/ha)	342(時/ha)	労働賃金	1,015(千円/ha)	407(千円/ha)	機械経費	377(千円/ha)	187(千円/ha)	<p style="text-align: center;">(7) 地域住民との関わり</p> <p>事業計画の策定                      ・本事業の活性化構想や整備方針等については、西有田町・農業委員会・農協・生産組合などから構成される西有田町農業活性化推進機構（平成4年設立）における議論や地域住民を対象としたワークショップ等で決定し、受益者の同意も得ていることから、地域住民の意向を反映した計画となった。                      地域住民による広報活動                      ・都市住民との交流を通じた中山間地域の活性化を図るため、地域住民が主体となって、収穫祭や棚田ウォーキングなどのイベントを開催しているが、今後、農家の高齢化などにより継続した活動に支障をきたす恐れがある。</p>
作物	平成12年			平成18年																																																						
	作付面積	単収	生産量	作付面積	単収	生産量																																																				
水 稻	92.1	453	417	105.3	450	474																																																				
アスパラガス	-	-	-	1.5	2,533	38																																																				
タマネギ	12.0	5,870	704	21.0	5,240	1,100																																																				
大 麦	-	-	-	5.0	311	15.6																																																				
	平成12年	平成18年																																																								
[ 水 稻 ]	平成12年	平成18年																																																								
労働時間	825(時/ha)	342(時/ha)																																																								
労働賃金	1,015(千円/ha)	407(千円/ha)																																																								
機械経費	377(千円/ha)	187(千円/ha)																																																								